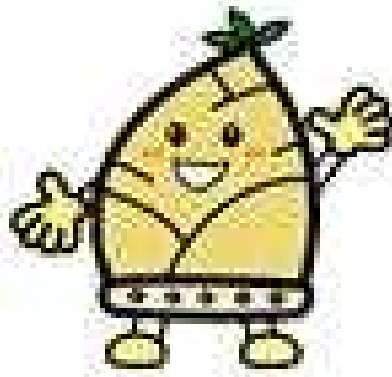


令和2年度

学校評価



阿南市立福井中学校

令和2年度調査

1 回答者

実施日 令和3年1月13日（水）～1月19日（火）

生徒38名（在籍40名） 保護者40名（回収率100%） 教職員13名

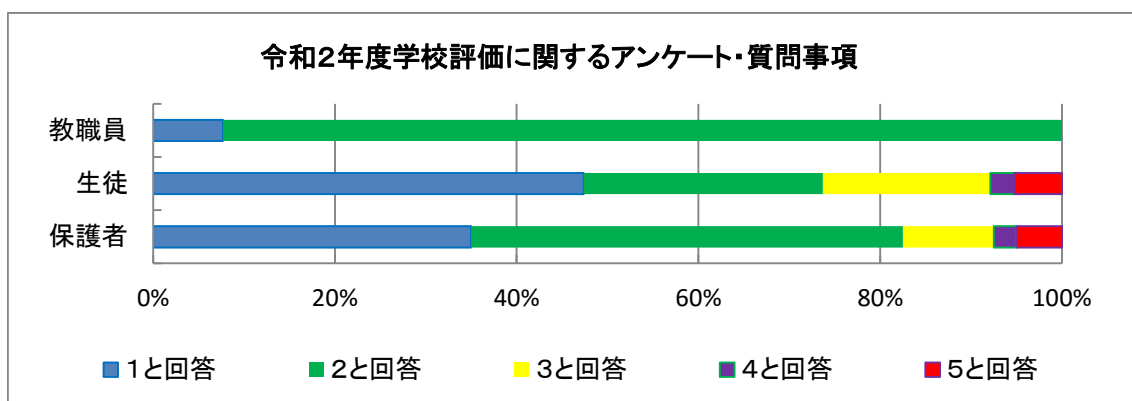
2 回答方法

各質問事項に対して、「そう思う」は1,「ほぼそう思う」は2,「どちらともいえない」は3,「あまり思わない」は4,「思わない」は5の5段階で回答していただき,「そう思う」「ほぼそう思う」を肯定的意見,「あまり思わない」「思わない」を否定的意見として,調査結果を分析しました。

3 結果の活用

調査結果は1月に取りまとめ,全ての教職員に配布して課題や改善点を明らかにしました。そこから得たものを3年度の学校運営や教育方針,さらに重点目標に反映させていきます。

また,保護者や学校評議委員の方にも調査結果をお示ししてご助言をいただき,改善すべき点は積極的に改善するよう努めていきます。

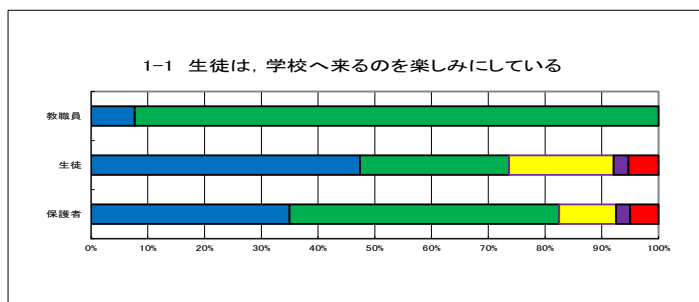


1 学校生活に関すること

【1-1】生徒は、学校へ来るのを楽しみにしている。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	1 (8%)	12 (92%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
生徒	18 (47%)	10 (26%)	7 (18%)	1 (3%)	2 (5%)
保護者	14 (35%)	19 (48%)	4 (10%)	1 (3%)	2 (5%)

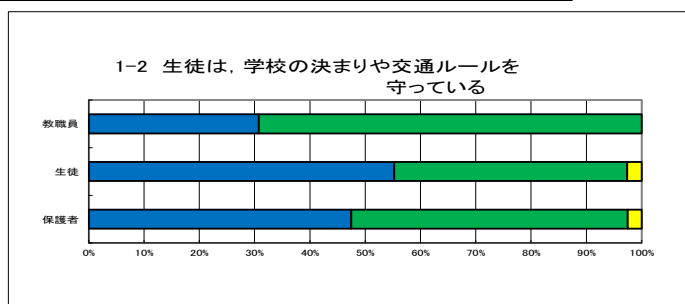
生徒の回答で、「そう思う」が18人、「ほぼそう思う」が10人と多い反面、「あまり思わない」が1人、「思わない」が2人となっている。また、保護者の回答では、「そう思う」が14人、「ほぼそう思う」が19人であるが、「あまり思わない」が1人、「思わない」が2人であった。肯定的な回答が大部分であるが、否定的な回答を意識して、校内の環境を整える必要がある。



【1-2】生徒は、学校の決まりや交通ルールを守っている。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	4 (31%)	9 (69%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
生徒	21 (55%)	16 (42%)	1 (3%)	0 (0%)	0 (0%)
保護者	19 (48%)	20 (50%)	1 (3%)	0 (0%)	0 (0%)

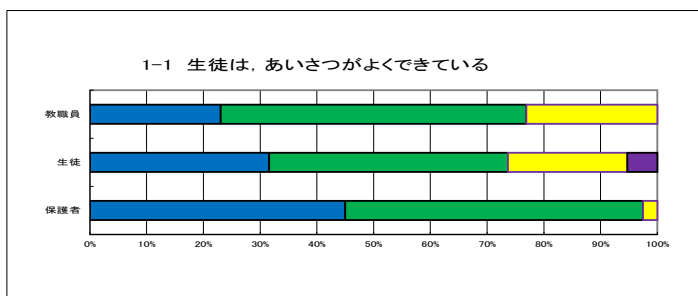
全体的に「決まりや交通ルールを守っている」という意識は、昨年度と同様に非常に高い。今後も守ることができるように、継続的に指導していきたい。狭い道や自転車道の整備ができていない道路が多いので、接触事故の心配がある。また、反射たすきの携行・使用なども含めて、安全に登下校ができるよう、交通マナーの向上等について指導していきたい。



【1-3】生徒は、あいさつがよくできている。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	3 (23%)	7 (54%)	3 (23%)	0 (0%)	0 (0%)
生徒	12 (32%)	16 (42%)	8 (21%)	2 (5%)	0 (0%)
保護者	18 (45%)	21 (52%)	1 (3%)	0 (0%)	0 (0%)

生徒の挨拶については、保護者、生徒、教職員の順に良く出来ていると評価している。保護者は学校全体として生徒の挨拶を評価しているので、よい傾向だと思われる。教職員の評価が低いのは、挨拶があまり出来ない一部の生徒に対する評

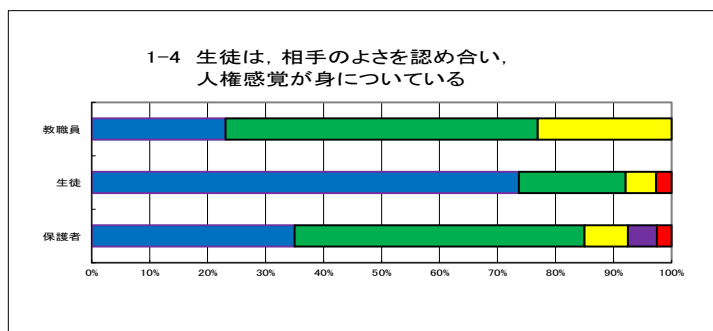


価が影響したり、朝や帰り以外の場面での挨拶の様子が影響したりしたためだと考えられる。挨拶をすることに抵抗を感じたり、大きな声を出すこと自体嫌がったりする年代ではあるが、今後も挨拶は大切な社会のマナーであることを指導していきたい。

【1-4】生徒は、相手のよさを認め合い、人権感覚が身についている。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	3 (23%)	7 (54%)	3 (23%)	0 (0%)	0 (0%)
生徒	28 (74%)	7 (18%)	2 (5%)	0 (0%)	1 (3%)
保護者	14 (35%)	20 (50%)	3 (8%)	2 (5%)	1 (2%)

教職員では77%，生徒と保護者では80%以上の割合で、肯定的な意見となっている。特に、生徒の「そう思う」と回答した割合が昨年度より20%近く向上し、日頃の人権学習の成果が現れてきていると感じる。割合は低いが生徒と保護者に否定的な回答をしている人もいて、来年度以降はさらに改善されるように、人権感覚を磨き、人権意識の向上と実践力を高められるような取組をしていく。

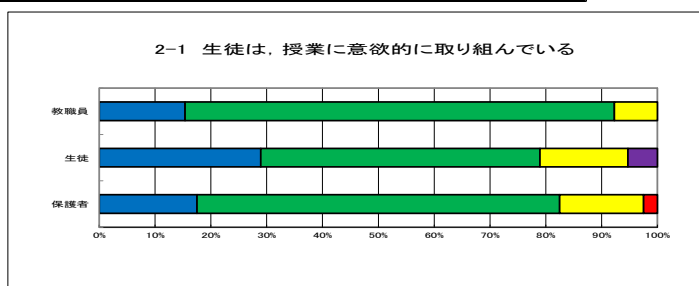


2 学習に関すること

【2-1】生徒は、授業に意欲的に取り組んでいる。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	2 (15%)	10 (77%)	1 (8%)	0 (0%)	0 (0%)
生徒	11 (29%)	19 (50%)	6 (16%)	2 (5%)	0 (0%)
保護者	14 (35%)	20 (50%)	3 (8%)	2 (5%)	1 (2%)

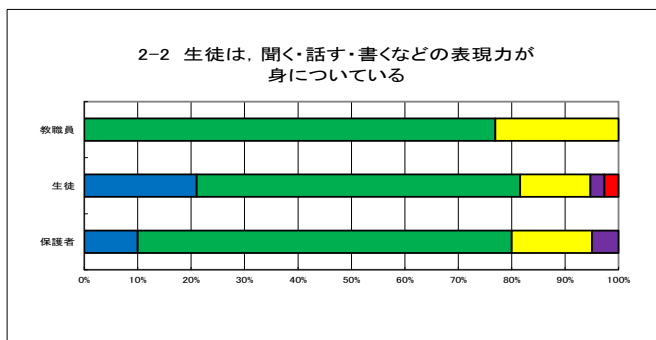
教職員の「できている」という回答は約90%，保護者の回答も約80%以上であり、生徒たちが意欲的に学習に取り組んでいるという印象をほとんどの教職員・保護者がもっている。また、約20%の保護者と生徒が「どちらともいえない」「どちらかといえどできていない」と感じており、全ての生徒が授業に意欲的に取り組むことが出来るように、授業の組み立てや指導の方法に工夫を加え、生徒に目的意識をもたせ、より意欲的に取り組めるようにしていきたい。



【2-2】生徒は、聞く・話す・書くなどの表現力が身についている。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	0 (0%)	10 (77%)	3 (23%)	0 (0%)	0 (0%)
生徒	8 (21%)	23 (61%)	5 (13%)	1 (3%)	1 (3%)
保護者	4 (10%)	28 (70%)	6 (15%)	2 (5%)	0 (0%)

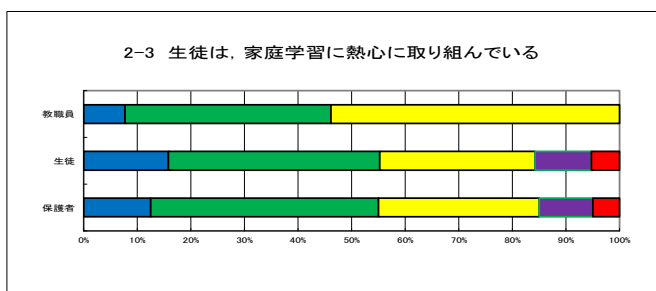
「身につけている」と肯定的な回答をした割合が、教職員 77%，生徒 82%，保護者 80%と、生徒・保護者が 80%以上であるのに対し、教職員はそれを下回っていた。一方、生徒の 6%，保護者の 5%が「身につけていない」と否定的な回答をしており、教職員と生徒・保護者間で意識の差が見られた。「聞く・話す・書く」などの表現力を身につけさせるため、授業における課題設定や授業形態の工夫等に努めていきたい。



【2-3】生徒は、家庭学習に熱心に取り組んでいる。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	1 (8%)	5 (38%)	7 (54%)	0 (0%)	0 (0%)
生徒	6 (16%)	15 (39%)	11 (29%)	4 (11%)	2 (5%)
保護者	5 (13%)	17 (43%)	12 (30%)	4 (10%)	2 (5%)

「そう思う」「ほぼそう思う」の割合が、保護者・生徒・保護者とも5割前後になっている。しかし、生徒・保護者の中には、「あまり思わない」「思わない」と思っている人が6名ずついる。家庭学習の時間が宿題だけに終わっている生徒がいることが考えられる。宿題に加え、日々の授業での学びを復習したり、次の授業の予習をしたりと家庭学習の時間をしっかり確保出来るようにしていきたい。

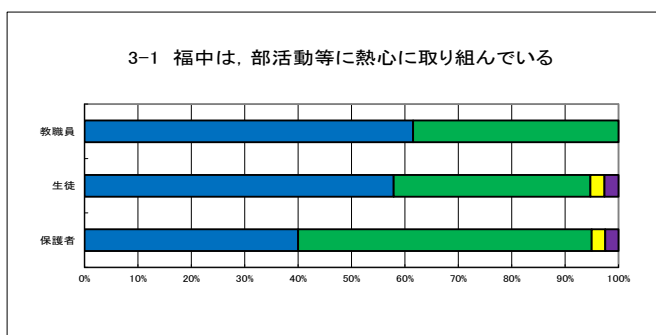


3 体力づくりに関すること

【3-1】福中は、部活動に熱心に取り組んでいる。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	8 (62%)	5 (38%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
生徒	22 (58%)	14 (37%)	1 (3%)	1 (3%)	0 (0%)
保護者	16 (40%)	22 (55%)	1 (3%)	1 (3%)	0 (0%)

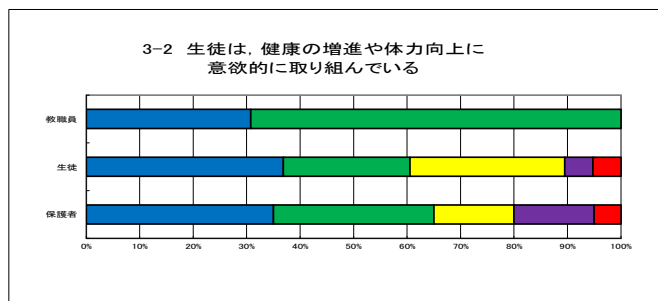
「そう思う」「ほぼそう思う」と生徒・保護者の90%以上が回答しており、教職員では100%となっている。全体的に部活動等に熱心に取り組んでいると思われる。ノ一部活デーなどを積極的に行うことにより、生徒や教職員の負担が減っていることで、けじめのついた部活動になっていると考える。しかし、生徒・保護者のごくわずかではあるが、「あまりそう思わない」と回答している人もいる。生徒一人一人が目標をしっかりもち、忍耐力や集中力を身につけられるようにサポートしていきたい。



【3-2】生徒は、健康の増進や体力向上に意欲的に取り組んでいる。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	4 (31%)	9 (69%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
生徒	14 (37%)	9 (24%)	11 (29%)	2 (5%)	2 (5%)
保護者	14 (35%)	12 (30%)	6 (15%)	6 (15%)	2 (5%)

教職員は、「そう思う」「ほぼそう思う」と回答し、全体的に見ると多くの生徒が体力向上に努めることができていると思われる。しかし、生徒や保護者で、「そう思う」「ほぼそう思う」と回答したのは7割未満である。健康の増進・体力向上に対して、個人内における目標設定の基準の差があると思われる。今後も引き続き、心と体の健康について指導を深めていきたい。

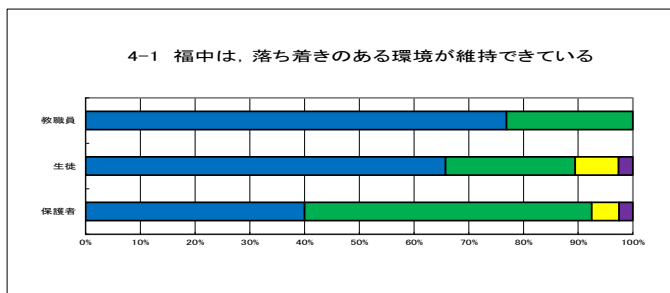


4 学校の環境に関すること

【4-1】福中は、落ち着きのある環境が維持できている。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	4 (31%)	9 (69%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
生徒	14 (37%)	9 (24%)	11 (29%)	2 (5%)	2 (5%)
保護者	14 (35%)	12 (30%)	6 (15%)	6 (15%)	2 (5%)

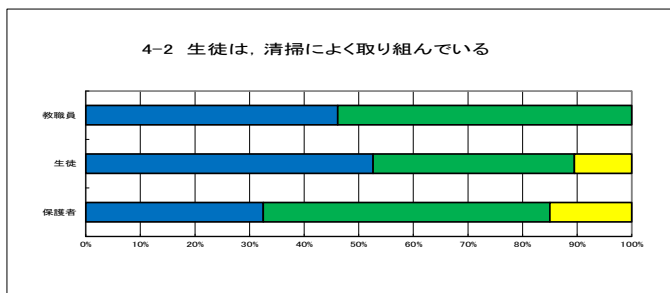
教職員、生徒、保護者の90%以上が落ち着きのある環境が維持できていると感じている。しかし、生徒・保護者の中には、「あまり思わない」「思わない」という回答も10%前後あり、休み時間の過ごし方など、今後、さらにより落ち着きのある環境づくりに取り組んでいく必要がある。



【4-2】生徒は、清掃によく取り組んでいる。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	6 (46%)	7 (54%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
生徒	20 (53%)	14 (37%)	4 (11%)	0 (0%)	0 (0%)
保護者	13 (33%)	21 (53%)	6 (15%)	0 (0%)	0 (0%)

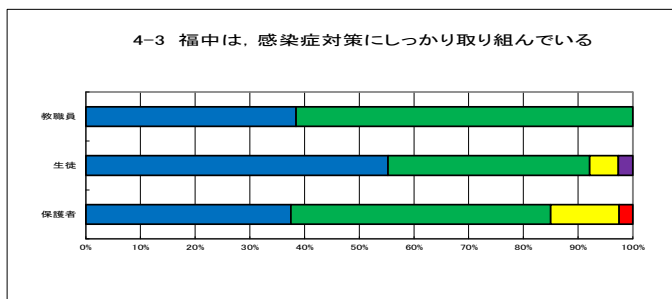
教職員、生徒、保護者のほとんどが「そう思う」「ほとんどそう思う」という肯定的な回答をしている。本校が清掃活動にしっかり取り組んだ結果であると考えられる。また、窓ふきコンテストを実施した際には、どの学年も時間を見つけ、窓をきれいにしようとする取り組みができた。今回の結果に満足することなく、今後も清掃活動にしっかり取り組むよう継続して指導していきたい。



【4-3】 福中は、感染症対策にしっかり取り組んでいる。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	5 (38%)	8 (62%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
生徒	21 (55%)	14 (37%)	2 (5%)	1 (3%)	0 (0%)
保護者	15 (38%)	19 (48%)	5 (13%)	0 (0%)	1 (1%)

教職員は、100%「そう思う」「ほぼそう思う」、生徒は、90%以上が「そう思う」「ほぼそう思う」、保護者は、83%が「そう思う」「ほぼそう思う」と回答している。全体的に見ると感染症対策にしっかり取り組んでいると考えている。現在行っている「手洗い、換気、消毒、マスク着用」などの感染症対策が習慣化できるように、今後もしっかりと取り組んでいきたい。

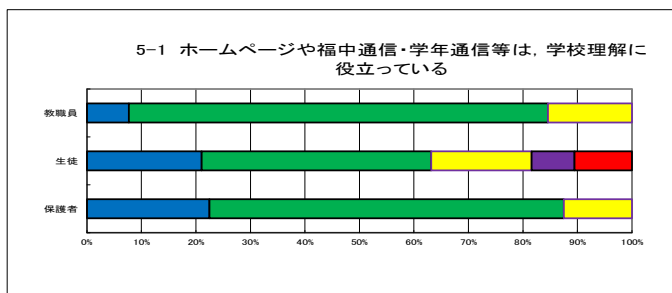


5 開かれた学校づくりに関すること

【5-1】 ホームページや福中通信・学年通信等は学校理解に役立っている。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	1 (8%)	10 (77%)	2 (15%)	0 (0%)	0 (0%)
生徒	8 (21%)	16 (42%)	7 (18%)	3 (8%)	4 (11%)
保護者	9 (23%)	26 (65%)	5 (13%)	0 (0%)	0 (0%)

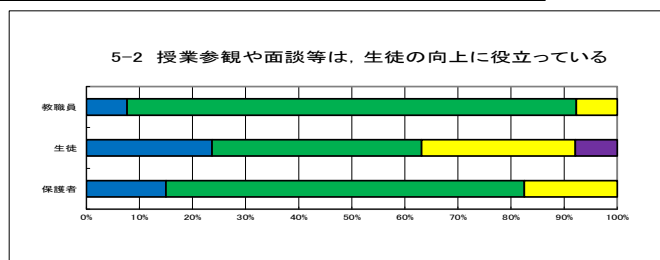
昨年度同様、教職員・保護者は8割以上が学校理解につながっていると考えており、家庭との連携の上で重要であることがうかがえる。生徒の肯定的な評価をする割合が6割余りとどまったのは、内容が生徒の活動報告が中心で見る機会が少ないことの結果だと考えられる。生徒が今以上に興味・関心がもてるように、内容を工夫していくことが重要である。



【5-2】 授業参観や面談等は、生徒の向上に役立っている。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	1 (8%)	11 (85%)	1 (8%)	0 (0%)	0 (0%)
生徒	9 (24%)	15 (39%)	11 (29%)	3 (8%)	0 (0%)
保護者	6 (15%)	27 (68%)	7 (18%)	0 (0%)	0 (0%)

教職員は約9割、保護者は約8割が肯定的に考えている。生徒の約4割、保護者の2割が「どちらともいえない」「あまり思わない」と考えており、授業参観等のあり方や授業内容の工夫を求められている。授業参観だけでなく、毎日の授業を改善し、生徒や保護者が納得できるようにしていくことが求められる。

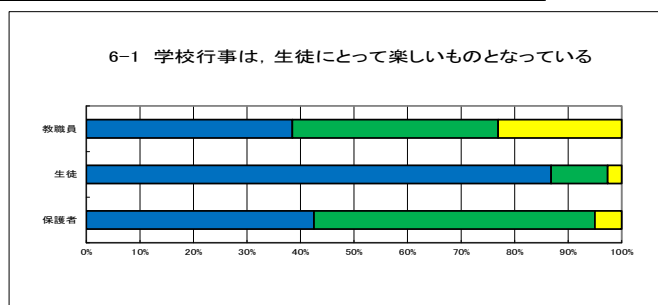


6 学校行事に関すること

【6-1】学校行事は、生徒にとって楽しいものとなっている。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	5 (38%)	5 (38%)	3 (23%)	0 (0%)	0 (0%)
生徒	33 (87%)	5 (11%)	1 (3%)	0 (0%)	0 (0%)
保護者	17 (43%)	21 (53%)	2 (5%)	0 (0%)	0 (0%)

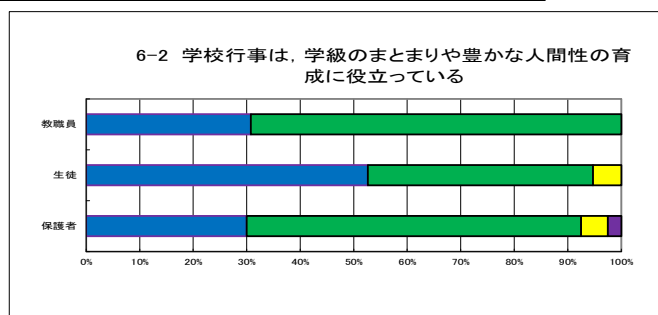
生徒・保護者のほとんどの人が、教職員も8割近くが「そう思う」「ほぼそう思う」と回答している。感染症対策で行事が減ったり、制限がかかったりして例年通り開催できなかったが、生徒や教職員ができる範囲で工夫をして行ったため、良い結果につながったと考えることができる。



【6-2】学校行事は、学級のまとまりや豊かな人間性の育成に役立っている。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	5 (38%)	5 (38%)	3 (23%)	0 (0%)	0 (0%)
生徒	33 (87%)	5 (11%)	1 (3%)	0 (0%)	0 (0%)
保護者	17 (43%)	21 (53%)	2 (5%)	0 (0%)	0 (0%)

教職員では肯定的な回答が100%、生徒・保護者でも90%以上となり、学校行事が大いに人間性の育成に役立っていると感じる。小規模校の特性を活かしながら、引き続き福井中らしい学校行事を実施していければよいと考えている。

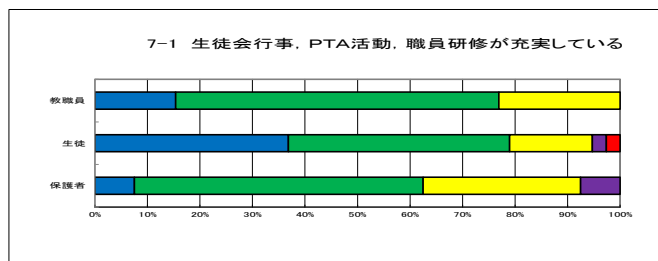


7 その他

【7-1】生徒会行事、PTA活動、職員研修が充実している。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	2 (15%)	8 (62%)	3 (23%)	0 (0%)	0 (0%)
生徒	14 (37%)	16 (42%)	6 (16%)	1 (3%)	1 (3%)
保護者	3 (8%)	22 (55%)	12 (30%)	3 (8%)	0 (0%)

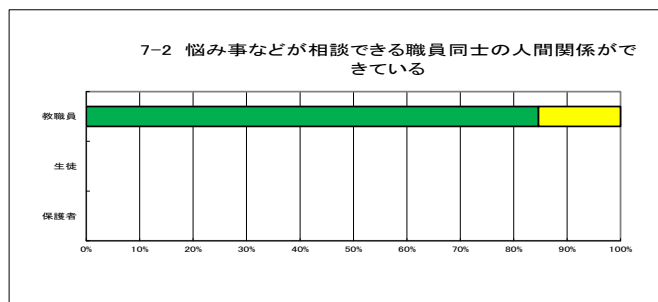
教職員・生徒・保護者とも半数以上が肯定している。しかし、生徒・保護者の中には否定的な意見を持っている人もいる。感染症の影響で思うように活動できない状況もあるが、来年度はできる範囲で充実した行事のあり方を考えていく必要があると考えられる。



【7-2】悩み事などができる職員同士の人間関係ができています。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	0 (0%)	11 (85%)	2 (15%)	0 (0%)	0 (0%)

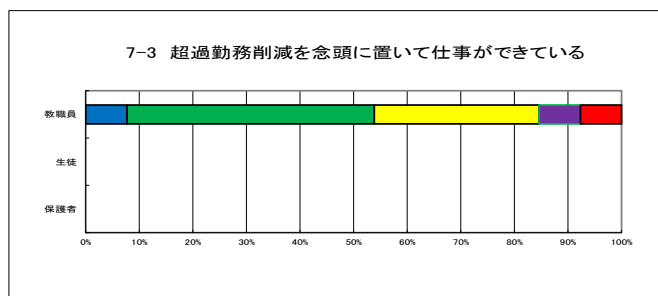
「できている」と回答した教職員が85%、「どちらともいえない」と回答した教職員が15%であった。8割以上の教職員が「職員同士の人間関係ができています」と感じている一方で、少数ではあるが、職員同士の人間関係に肯定的に捉えていない教職員がいることが分かる。全ての教職員にとって、支え合う人間関係が構築できるよう、職場環境の改善によりいっそう努めたい。



【7-3】超過勤務削減を念頭に置いて仕事ができている。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	1 (8%)	6 (46%)	4 (31%)	1 (8%)	1 (8%)

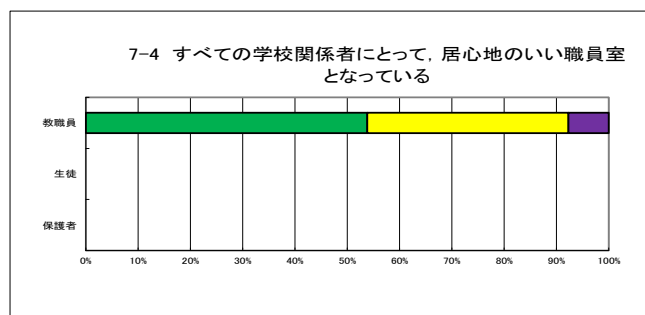
50%近い職員が、超過勤務削減をあまり考えずに勤務していることが分かった。現実問題として、部活動の指導や試合で勤務時間外での活動が多いため、超過勤務の問題を考える以前の問題となっていることが考えられる。しかし、わずかでも超過勤務時間を削減するため、勤務のあり方やワーク・ライフ・バランスを考えるよう教職員全体で共通理解していく必要がある。



【7-4】すべての学校関係者にとって、居心地のいい職員室となっている。

	1と回答	2と回答	3と回答	4と回答	5と回答
教職員	0 (0%)	7 (54%)	5 (38%)	1 (8%)	0 (0%)

わずかではあるが、居心地のいい職員室となっていないと実感している職員がいる。また、「どちらともいえない」と回答した職員も含めると半数近くが肯定的に捉えていない。職員室のあり方はどうあるべきか、すべての教職員にとって居心地のいい職員室にしていかなければならないと考える。



主なご意見・ご要望

※ 個々への要望については、掲載していません。

- ・ 先生方の熱意に感謝しています。
- ・ 靴下の色を黒も取り入れてほしい。
- ・ 資源回収は年1回にしてはどうでしょうか。経費が足りないのであればPTA会費をあげる、任意で寄付を募るなどで対処できないか、検討していただきたい。
- ・ 少人数というものもありますが、先生方全員が子どもたち一人一人としっかり向き合い、寄り添い指導してくれる最高の環境だと思っています。
- ・ 朝練の回数をもう少し減らして欲しい。実力テストの日も朝練を休みにして欲しい。
- ・ 企画委員会があった方がいい。
- ・ コロナ対策で例年と違って大変なことが多かったですが、生徒はよく頑張っていたと思う。

令和2年度福井中学校学校評価

1. 重点項目

- ① 進んでコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成
- ② 学習課題をもって授業に臨む生徒の育成
- ③ 早寝早起き朝ご飯，朝活，部活で元気な生徒の育成
- ④ 人権教育から生き方を学ぶ生徒の育成～生き方の指針となる人権教育の展開

2. 評価基準

- A 十分に目標が達成された。
- B おおむね達成された。
- C 工夫改善が望まれる。

3. 評価活動計画

1月中旬に生徒・保護者・教職員のアンケートを実施して、その結果を参考にしながら学校評価委員会において自己評価を行う。

学校評価委員会（校長・教頭・教務主任・研修主任・人権教育主事・生徒指導主事・特別支援教育コーディネーター・養護教諭・事務室長）

2月中旬に、若竹教育推進委員会を開催し、学校関係者評価を行う。

自己評価

重点目標	自己評価
① 進んでコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成	B
② 学習課題をもって授業に臨む生徒の育成	B
③ 早寝早起き朝ご飯，朝練，部活で元気な生徒の育成	A
④ 人権教育から生き方を学ぶ生徒の育成	A

若竹教育推進員の皆様からの御意見

- ゲームの課金トラブルはないのか。
学校に報告はないが，あるだろうと想像できる。スマホなどの無料ゲームがあぶない(大人も)。
- フィルタリング対策に反対が24%(小学校)あるが，どういうことか。
手間がかかることが否定的な意見になっているのだろうと思う。子ども名義で契約する場合は，フィルタリングをしなければ契約できない。どういう形で契約しているかによると考えられる。
- 変形労働時間制が導入されるが，超勤が当たり前と思われてきた学校現場で働き方が変わるのだろうか。
中学校は部活動がある。非常に厳しいが，どうにか工夫しながら取り入れるよう努力してみる。
- コロナで業務量が増えたといわれるが，実際はどうか。
コロナ対策にかかる時間は確かに増えた。それとともに，コロナ対策をしながら学力向上の工夫をしなければならない。心理的負担が大きい。
- タブレット導入の課題はあるか。
使える者と使えない者がいる。同じように積極的に使えなければならない。また，トラブルなどの対処等が問題である。
- 交通指導していても，子どもたちとあまり会わない。徒歩で通学している子どもが少ないのではないか。中学校も朝の陸上練習は止めたのか。
起きる時間が遅かったり，寒くなってきたりで，歩いてくる子どもが減ってきている(小学校)。地域によって子どもたちが減って，交通指導していただいている時間帯に子どもたちが通らないようになってきている(中学校)。
- 交通指導の時間帯を変更した方がいいか。
いつも交通指導をしていただき，非常にありがたく思っている。今まで通りの時間帯でお願いしたい。
- 総体前に福井体協で送別試合を計画してくださって，非常にありがたかった。

みんなで育てよう 福井の子どもたち

のびろ若竹

学校関係者評価 令和3年2月19日（金） 19:00

評価委員

- ・中学校PTA会長 福井 達人 様
- ・小学校PTA会長 島 篤志 様
- ・福井公民館長 南部 宣男 様
- ・市主任児童委員 上野 益代 様
- ・市主任児童委員 原田 裕子 様
- ・元市内小学校長 阿部 昇司 様
- ・福井地区子どもを守る会長 生田 陽二 様
- ・福井元気祭実行委員会会長 黒川 正人 様
- ・福井地区民生委員 坂東 勝美 様
- ・元福井中学校長 宮崎 芳夫 様
- ・福井婦人会会長 原 礼子 様
- ・福井セニヤクラブ会長 中川 賀卿 様
- ・福井体育協会会長 湯浅宏一郎 様
- ・福井教育集会所長 中山 俊一 様
- ・若竹ふれあい会理事 内藤富士雄 様
- ・福井住民センター所長代理 原田 隆博 様
- ・福井保育所長 青木 吏佳 様
- ・福井小学校長 福田 康治 様
- ・福井小学校教頭 林 洋美 様

